

演劇作りはなぜ楽しいのか

河内千春
(早稲田大学)

1. 私の演劇体験

大学生の時の専攻はスペイン語だった。毎年大学祭の時に各語学科が外国語劇を上演することになっていた。私は役者として舞台に立ったり、衣装や小道具を集めてきたり、メイクをしたり、セリフの練習の相手をしたりして、4年間スペイン語劇に関わった。「限られた時間の中で皆が協力して何かを作り上げる」ということがとても楽しかった。

2. 日本語クラスで

教科書中心のクラスを担当している時には演劇を取り入れる機会はなかった。聴解や口頭表現クラスでは、日本語教育用ビデオを教材として、内容理解だけでなくビデオ通りの会話練習や身体の動きをつけた練習を行っていた。

3. 演劇作りの実践

2002年度と2003年度の口頭表現クラスで演劇作りを取り入れてみた。5分～10分程度の演劇作品を作るというものである。学生たちは作品を作りながら、作成ノートに作成の経過（作成意図・作成手順など）を書き込んでいった。クラスの最後に教室で上演を行ない、その後、経過と結果について発表した。

4. 学生たちの感想

「外国人である私が日本語でドラマを作ったのは感動的」など、私が学生時代に感じたこと以上に感じる場所は多かったようだ。

5. まとめ

演劇作りが楽しいと感じる理由は、

- ・教科書通りではないこと
- ・虚構の世界を作ることができること
- ・自分の意見を主張したり他人の意見を聞いたりして、共同作業ができること